

文系学生向けの PM 教育・実践教育

中央大学 文学部 社会情報学専攻 飯尾 淳

2016 年 12 月 24 日

1 社会情報学専攻の簡単な紹介

私が実践している PM 関連教育について紹介する前に、本学の社会情報学専攻について簡単に説明しておきましょう。

2016 年現在、中央大学は、法・経済・商・理工・文・総合政策の 6 学部による構成です。後楽園キャンパスにある理工学部を除いた 5 学部は、自然豊かな東京郊外にある多摩キャンパスに置かれています。そのなかで私は文学部に所属しており、文系学生を対象に PM 関連教育を実施しています。

中央大学文学部の特徴は、13 の専攻に分かれていて、幅広い教育を実施しているところにあります。英文、国文、仏文といった文学系や、日本史、西洋史など史学系だけでなく、哲学、社会学、社会情報学、心理学、教育学といった社会科学系の専攻も存在し、学生の興味に応じて多様な学問を学べる点が大きな特長です。

私が所属している社会情報学専攻は、社会学専攻と密接に連携しつつも、情報学という観点から、社会をどう理解していくのかという研究について学ぶものです。文学部にありながら、たとえばデータ解析には統計学が必須でもあり、学際的な知識を活用して学修・研究を進めます。また、データサイエンス的な手法も援用するので、情報システムに関する知識も不可欠です。プログラミングやシステム開発に関する科目も、1～2 年次にしっかりと学ぶことになっています。

社会情報学専攻は、IT 産業に従事する卒業生も数多く排出しています。選択科目には、「ネットワーク技術」や「データベース技術」など、多くの IT 関連科目が用意されています。教職課程では、高校の教科「情報」の免許も取得することができますようになっています。

2 実践教育事例

システム開発に関する実践的な科目として、「情報システム設計」と「情報システム開発」という科目を私が担当しています。それぞれ前期、後期に開講されており、通年での履修を想定したカリキュラムとなっています。なお、社会情報学専攻は情報コミュニケーションコースと図書館情報学コースに分かれており、後者の学生は、この両科目は必修科目に指定されています。

2.1 情報システム設計

前期の「情報システム設計」では、次の内容を扱います。

- 情報システムとは何か
- 情報システムのモデル・扱い方
- 開発モデルと設計技法
- 情報システムとアルゴリズム
- アルゴリズムとデータ構造 (1)(2)
- 要求定義
- 要求定義 (演習)
- 演習の発表
- 構造化設計

- 構造化プログラミングとオブジェクト指向
- オブジェクト指向の基礎
- フローチャートと図解
- UML による設計仕様
- 情報システムとドキュメンテーション

2.2 情報システム開発

また、後期に開講される「情報システム開発」では、次の内容を扱います。

- 情報システム開発、その要点
- 代表的な情報システムの構造
- Web アプリケーションの基礎
- Web アプリケーション演習(1)(2)
- プログラム言語と部品・モジュール化と部品展開
- C による情報システム開発の基礎(1)(2)
- プログラム言語と部品・ライブラリとヘッダファイル
- 情報システムのプログラミング・その構造化設計と開発
- 情報システム開発プロジェクトの管理
- WBS とスケジュール
- コストとリスク
- 品質管理，チームマネジメントとコミュニケーション管理

本科目の後半 4 回を使って、簡単な PM 教育を実施します。なお、PM 教育の導入部分では、PMI 日本支部による「PM はじめの一步」教材を利用しています。

2.3 両科目の特徴

情報システム設計と情報システム開発の両科目は、いずれも、理論だけではなく、グループによる実践的な演習を取り入れている点が特徴です。図 1 に、グループ演習成果の例を示します。毎年、演習に参加する学生は、慣れない開発作業に苦しみながらもユニークな発想のアプリケー

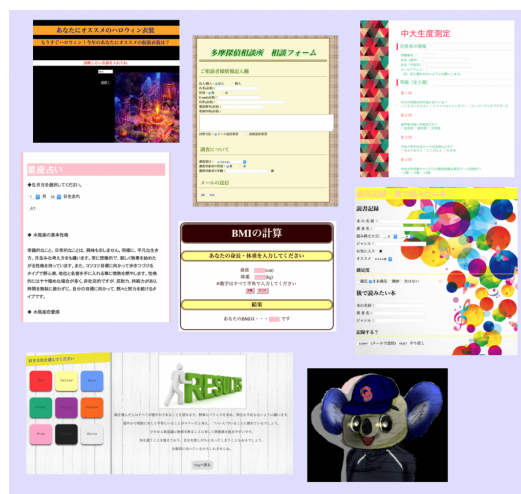


図 1 演習成果の例

ションを作成しています。

3 課題と今後の展望

本科目は前期後期あわせてじっくり学ぶ科目とはいえ、本来はもっと時間をかけて複数の科目で学ぶべき内容を詰め込んだ構成になっている点は、再考の余地が残されているかもしれません。とくに、PM 関連教育の時間をもう少し増やすという選択は十分にありえるでしょう。例年、PM 関連の内容は、「日々の活動に役立ちそう」と学生からも好評を得ています。

本稿では社会情報学専攻の取組みについて紹介しましたが、文学部全体としても「基礎教育の一環として、ジェネリックスキルとしての PM 教育を取り入れてはどうか」という声が上がっています。この意見は私が主張したのではなく、総合教育の改革に関する会議の場において、他の(工学とは縁遠いような)先生方から挙げられたものです。その案はまだ実現はしていないものの、PM に対する認識が高まっていることを感じました。